

平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 アールビバン株式会社
 コード番号 7523 URL <http://www.artvivant.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 岩本 一也
 (氏名) 樋口 弘司

TEL 03-5783-7171

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,313	△0.3	210	5.2	241	24.8	145	23.4
25年3月期第1四半期	1,317	0.4	200	121.9	193	55.5	117	△26.4

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 147百万円 (33.3%) 25年3月期第1四半期 110百万円 (△21.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	11.13	—
25年3月期第1四半期	9.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	16,758	12,851	76.7	982.71
25年3月期	16,910	12,834	75.9	981.46

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 12,851百万円 25年3月期 12,834百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,600	△3.5	400	△9.7	400	△9.2	200	△27.2	15.29
通期	5,150	△3.4	780	11.1	790	4.5	380	△41.3	29.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 通期の当期純利益の前年同期比が大幅にマイナスになっている理由につきましては、前期のアールビバン株式会社におきまして、住民税・事業税の欠損金が解消することに伴い、税効果会計の法定実効税率を見直したことにより繰延税金資産の計上を134百万円行ったため、税効果会計適用後の法人税等の額が税金等調整前当期純利益に対し著しく少なかったためであります。また、第2四半期(累計)におきましては、法定実効税率の見直しによるものであります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	15,463,816 株	25年3月期	15,463,816 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	2,386,612 株	25年3月期	2,386,612 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	13,077,204 株	25年3月期1Q	13,077,245 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、いわゆるアベノミクスによる給与の増加などの政策効果への期待が引き続きみられるものの、円安の影響による仕入価格や電気料金の上昇等によるコスト増が懸念されるなかで、株価や為替の変動による先行き不透明感が見られ、景気を持ち直しのテンポは緩やかな状況となっております。

このような状況の下、当社グループでは、引き続き、「絵のある豊かな生活(くらし)」によって、一人でも多くのお客様に夢や希望を感じていただけるように営業活動を推進し、基幹の「アート事業」を中心に積極的な営業展開を行ってまいりました。また、経営資源の集中と組織の効率化をテーマに、コスト削減に努め、収益力の改善に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,313百万円(前年同四半期比0.3%減)となったものの、営業利益210百万円(同5.2%増)、経常利益241百万円(同24.8%増)、四半期純利益145百万円(同23.4%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

◆アート関連事業

当社グループの主力事業である絵画等販売事業におきましては、新企画「ディズニードリームアートフェスティバル」の開催など、引き続き、新規顧客獲得に主眼をおいた営業活動に注力をし、また、イラストグッズ販売におきましては、4月に6店舗目のギャラリー(グッズ専門店としては3店舗目)を栃木県宇都宮市に出店するなど、新規顧客の獲得及び取扱アーティストのブランド化に努めてまいりました。

この結果、売上高は937百万円(同5.7%増)、営業利益は137百万円(同2.4%減)となりました。

◆金融サービス事業

金融サービス事業におきましては、引き続き、当社及びその他一般加盟店の顧客に対する個別信用購入斡旋事業を中心に取り組んでまいりました。

この結果、債権担保融資事業の収益が減少したことにより売上高は180百万円(同0.5%減)と微減したものの、営業利益は109百万円(同15.1%増)となりました。

◆リゾート事業

「タラサ志摩ホテル」におきまして、自社運営により、本来の強みである「タラソセラピー」やヘルシーな食事・快適な運動・リラクゼーションの3要素を組み合わせた「トータルヘルスプログラム」など心と体をテーマにしたコンセプトの確立や地元競合ホテルとの明確な差別化を図り、存在感のある「タラサ志摩ホテル」を追求し、収益力のアップを目指して運営をいたしました。

この結果、客室の販売は前年を上回りましたが、ブライダルの挙式数が低調だったため、売上高は101百万円(同16.6%減)となり、営業損失は50百万円(前年同四半期は62百万円の営業損失)となりました。

◆健康産業事業

フィットネスクラブ「カルナ フィットネス&スパ 柏」におきまして、引き続き、ホスピタリティ精神を大切に質の高いサービスの提供及び新規会員の獲得数アップと既存会員の退会防止に主眼をおいた営業活動を推し進めてまいりました。

しかしながら、前期におきまして2店舗撤退したことにより売上高は96百万円(同25.3%減)となり、営業損失は7百万円(前年同四半期は2百万円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は14,940百万円となり、前連結会計年度末に比べ115百万円減少いたしました。これは主に、商品及び製品が40百万円増加し、剰余金の配当等に伴い現金及び預金が47百万円、その他流動資産が96百万円減少したことによるものであります。固定資産は1,818百万円となり、前連結会計年度末に比べ36百万円減少いたしました。これは主に投資有価証券が24百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は16,758百万円となり、前連結会計年度末に比べ151百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は3,741百万円となり、前連結会計年度末に比べ145百万円減少いたしました。これは主に前受金が66百万円増加し、未払法人税等が35百万円、割賦利益繰延が33百万円、買掛金が29百万円、その他流動負債が115百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は165百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円減少いたしました。これは主に役員退職慰労引当金が25百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,907百万円となり、前連結会計年度末に比べ168百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は12,851百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が14百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は76.7%（前連結会計年度末は75.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月15日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,767,696	2,719,873
受取手形及び売掛金	6,525,197	6,536,163
営業貸付金	764,551	735,975
商品及び製品	3,642,113	3,682,132
仕掛品	5,204	2,516
原材料及び貯蔵品	26,107	27,085
前払費用	84,143	83,809
繰延税金資産	1,057,155	1,066,604
その他	364,975	268,182
貸倒引当金	△181,807	△182,205
流動資産合計	15,055,338	14,940,138
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,405,971	1,405,971
減価償却累計額	△1,056,858	△1,062,110
建物及び構築物（純額）	349,113	343,860
土地	227,722	227,722
リース資産	3,990	3,990
減価償却累計額	△1,862	△2,061
リース資産（純額）	2,128	1,928
建設仮勘定	1,083	—
その他	359,456	356,850
減価償却累計額	△289,230	△290,267
その他（純額）	70,226	66,583
有形固定資産合計	650,273	640,095
無形固定資産		
その他	3,359	3,972
無形固定資産合計	3,359	3,972
投資その他の資産		
投資有価証券	505,975	481,554
敷金及び保証金	178,915	179,059
繰延税金資産	279,373	279,988
その他	304,858	302,183
貸倒引当金	△67,978	△68,598
投資その他の資産合計	1,201,145	1,174,187
固定資産合計	1,854,779	1,818,255
資産合計	16,910,118	16,758,394

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	227,412	197,854
短期借入金	209,000	180,000
未払法人税等	149,068	113,938
前受金	1,021,651	1,088,556
割賦利益繰延	1,561,173	1,527,723
賞与引当金	52,292	79,840
返品調整引当金	31,756	34,544
その他	635,420	519,477
流動負債合計	3,887,775	3,741,936
固定負債		
リース債務	2,234	2,024
退職給付引当金	36,076	37,309
役員退職慰労引当金	25,230	—
資産除去債務	121,824	122,465
その他	2,223	3,526
固定負債合計	187,588	165,325
負債合計	4,075,363	3,907,262
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,656,000	1,656,000
資本剰余金	6,706,301	6,706,301
利益剰余金	5,675,320	5,690,032
自己株式	△1,328,892	△1,328,892
株主資本合計	12,708,730	12,723,442
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	126,023	127,688
その他の包括利益累計額合計	126,023	127,688
純資産合計	12,834,754	12,851,131
負債純資産合計	16,910,118	16,758,394

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	1,317,676	1,313,906
売上原価	554,936	529,589
売上総利益	762,740	784,317
販売費及び一般管理費	562,424	573,566
営業利益	200,316	210,751
営業外収益		
受取利息	129	72
受取配当金	2,207	2,802
投資事業組合運用益	404	13,087
為替差益	—	13,808
その他	3,454	3,490
営業外収益合計	6,196	33,261
営業外費用		
支払利息	1,273	732
不動産賃貸費用	423	548
為替差損	9,339	—
貸倒引当金繰入額	—	488
その他	1,714	502
営業外費用合計	12,750	2,272
経常利益	193,761	241,739
特別損失		
減損損失	24,325	5,713
特別損失合計	24,325	5,713
税金等調整前四半期純利益	169,436	236,026
法人税、住民税及び事業税	11,187	94,242
法人税等調整額	40,322	△3,699
法人税等合計	51,510	90,542
少数株主損益調整前四半期純利益	117,925	145,484
四半期純利益	117,925	145,484

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	117,925	145,484
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,573	1,665
その他の包括利益合計	△7,573	1,665
四半期包括利益	110,352	147,149
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	110,352	147,149
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1 四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	アート関連 事業	金融サー ビス事業	リゾート 事業	健康産業 事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	886,873	180,213	121,621	128,967	1,317,676	—	1,317,676
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	30	1,401	—	—	1,431	△1,431	—
計	886,903	181,615	121,621	128,967	1,319,108	△1,431	1,317,676
セグメント利益 又は損失 (△)	141,343	95,218	△62,211	2,755	177,105	23,210	200,316

(注) 1. セグメント利益の調整額23,210千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート事業」において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。当該事業による当第1 四半期連結累計期間の減損損失の計上額は24,325千円であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	アート関連 事業	金融サー ビス事業	リゾート 事業	健康産業 事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	937,422	178,676	101,437	96,369	1,313,906	—	1,313,906
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	30	2,073	—	—	2,103	△2,103	—
計	937,452	180,750	101,437	96,369	1,316,009	△2,103	1,313,906
セグメント利益 又は損失 (△)	137,973	109,622	△50,950	△7,852	188,791	21,959	210,751

(注) 1. セグメント利益の調整額21,959千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート事業」及び「健康産業事業」において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。当該事業による当第1四半期連結累計期間の減損損失の計上額は1,526千円及び4,187千円であります。